



日本聖公会
大阪教区教務局
〒545-0053
大阪市阿倍野区
松崎町2-1-8
TEL 06-6621-2179
FAX 06-6621-3097
発行責任者
教務局長 司察 原田光雄

〈HP〉 <http://www.nskk.org/osaka/index.htm> 〈e-mail〉 office.osaka@nsk.org

第418号 2011年4月24日発行

東日本大震災のための祈り

慈悲の神、天の父よ、東日本大震災によって命を失った人びとの死を悼みます。どうか主の深い慈しみのうちに、この人びとを安らかに憩わせてください。また、愛する者を失って悲しむ人びとがみ力により、あなたの愛の慰めのうちに生きることが出来ますように。この震災によって離散させられた人びと、傷つき病のうちにある人びと、弱い立場に置かれている人びと、ことにしょうがいのある人びと、ご高齢の人びと、外国からの人びとを愛のみ手をもって守り支えてください。また悲しみ、悩み、苦しみ、孤独のうちにある人びと、希望を失いかけている人びとを慰め、生きる勇気と希望をお与えください。今、避難生活を余儀なくされている人びとや不自由な生活を強いられている人びとに、必要な保護が与えられますように。また、震災復興のために働くすべての人びと、ことに危険な作業に従事する人びとを導き支えてください。そしてわたしたちが心を合わせて祈り、いつもともにおられる慰めの主のみ姿を見出すことができますように。これらの祈りを主イエス・キリストのみ名によってお献げいたします。アーメン

(管区礼拝委員会作成・主教会承認 2011年4月)

この厳粛な事実を目を向けることなく、自分の力や努力によって生きていくように錯覚し、傲慢な思いに陥ってしまいます。自分の人生は自分の力によって切り開いて行かなくてはならないように思うために、自分の力ではどうすることも出来ない病や老い、死に直面した時に狼狽し、失望し、絶望してしまいます。

死は神から離れた罪なる人間にとっては、不安であり、悲しみであり、虚無であり、絶望であるのです。しかし、聖書は神によって主イエスが死からよみがえらされたことを告げています。よみがえり(復活)は死からのよみがえりではありません。死のないよみがえりは死に打ち勝つことであり、死を克服することを意味しています。更に、特権は「主イエスの復活によって罪と死の古い支配の力に打ち勝ち、主イエスにあって万物を新しくされた」とあります。主イエスの復活によってすべてのもの(人間)が罪から解放されて赦され、死の不安や恐怖から解放され、神に受け容れられ、神に愛され、永遠の命を賦与される新しい存在とされるのです。

(うのとのおる)



イースターメッセージ

イエスの復活の恵みによって

主教 ヤコブ 宇野 徹
(前大阪教区主教)

キリスト教の信仰の中で「復活」ということが最も難解で、受け入れることが困難である。「自分を愛するように、隣人を愛しなさい」とか、人の罪を贖うためにイエスは十字架にかかられたというのには、受け容れやすいように思いますが、

さて、復活日の特権が「すべての命と力の源である神よ」という祈りから始まっています。この祈りは、神がすべての命の源であり、力の源であり、私達人間が神によって命を与えられてこの世に存在し、生かされて生きていることを語っています。私達は

パウロはローマの信徒への手紙6・23に「罪の支払う報酬は死です。しかし、神の賜物は、わたしたちの主キリスト・イエスによる永遠の命なのです」と語っています。神の存在を蔑ろにし、自分中心に、自分の力や知性のみを頼みとして生きようとする人間、神に背を向けて生きようとする罪なる人間にとっては、死は虚無にとめざるを得ない耐え難い恐怖であり、絶望の何物でもありません。

しかし、聖書は神によって主イエスが死からよみがえらされたことを告げています。よみがえり(復活)は死からのよみがえりではありません。死のないよみがえりは死に打ち勝つことであり、死を克服することを意味しています。更に、特権は「主イエスの復活によって罪と死の古い支配の力に打ち勝ち、主イエスにあって万物を新しくされた」とあります。主イエスの復活によってすべてのもの(人間)が罪から解放されて赦され、死の不安や恐怖から解放され、神に受け容れられ、神に愛され、永遠の命を賦与される新しい存在とされるのです。

(うのとのおる)

東日本大震災の被災者支援募金及び救援物資のご協力に感謝

主教 サムエル 大西 修

3月11日の東日本大震災発生から1カ月が過ぎようとしています。

今あらためて、逝去された人びととそこご遺族、今なお行方不明の人びと、多くの被災者、避難生活を余儀なくされている人びと、弱い立場にある人びと、また福島原発事故による放射能の危機にさらされている人びとを覚えてお祈りいたします。

日本聖公会東北・北関東教区の教会と信徒・教役者の皆さまのことも日々の祈りのうちに覚えてまいりましょう。

皆様のご協力により聖贖主教会牧師館に集められた被災者救援物資は、4トン積トラックが一杯となり、去る4日午前、仙台に向けて出発し、翌5日、福島県の海岸沿い最北にある新地町に無事届けられました(6日現在、86人死亡、約40人行方不明、約650人避難、住宅約500棟全

壊の町)。

大阪教区災害支援対策本部長に指名しました教務局長原田光雄司祭を長として、古澤秀利聖職候補生、岡田良一兄(大阪城南キリスト教会)、ボランティア3人(川口基督教会と石橋聖トマス教会)が行いました。古澤聖職候補生と岡田兄は13日まで仙台の災害対策本部で、主に運転手としてのお手伝いをするこ

とになっていきますが、他の4人は6日夜、帰阪いたしました。引き続き、人的支援の要請があれば、第2グループ(1〜2人)を派遣したいと考えていますので、登録してください(現段階ではきつい仕事が多いと思われる)。

さて、救援物資について新たなお願いをいたします。被災地の状況は時々刻々変化しておりますが、だいぶ落ち着いてきており、物品も次

第に地元で調達できるようになってきたこととです。それを受けて、教区として救援物資を集めることは4月10日(日)をもって一度ストップすることになりました。今後、必要な救援物資は限り限定されることが予想されます。その時は再度お知らせ

した上で、集めることになりますのでよろしくお願いいたします。

被災者支援募金について 第1回分として、3月中旬に教区に集められました約150万円は管区事務所に送金いたしました。

教区では、近々、救援支援復興募金の教区目標額を決めて、長期にわたりこれを継続していきたいと考えております。どうぞ、この点につきましても、各位のご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

大阪教区各教会信徒、教役者の皆様ですが、良き復活日をお迎えになれますように。主において。

ご協力ありがとうございました！

被災者支援物資提供と配送協力に感謝



現地へ向かう教役者・シニア信徒と教区支援センターの皆さん (4月4日朝10時、聖贖主教会牧師館前)

4月2日(土)に聖贖主教会牧師館(1階)に被災地支援センターが開設され。第1弾として4月4日(月)朝、4トントラックで各教会や神戸教区から協力いただいた支援物資を、原田光雄司祭を団長とする訪問団6人が現地に向けて出発しました。

現地では物資が充足してきていますので、今週末で支援活動を終了いたします。ご協力ありがとうございました。大阪教区報第419号(次号)では、東日本大震災被災者支援活動を掲載いたします。

主と共にあゆむ 13

賢い祖父と愚かな孫

セバスチャン 岡本 正



祖父、岡本新次郎が大阪府下泉北にある村で生まれたのは明治18年5月です。奇しくも大阪聖パウロ教会の創設が同年2月となっています。両

者が何時どのような切っ掛けで結ばれたのかは詳らかに知らされていません。祖父が後年養子に入った先が大阪市内の横堀にありました。大正12

年には大阪聖パウロ教会も横堀にあつて、伝道、宣教の勢いのあつた時代と思われ、利発で、がむしゃらな面もある祖父は、異文化のキリス

ト教に出会い、将来の進む道を照らす一条の光を見つけたのではないかと思います。信徒となり、米国人の監督らとの親交により欧米の文化を身につけて、信仰を深めるとともに自らの仕事を推進し発展させました。

戦後、経営していた工務店をたたみ、京都の田舎に居を構え、晴耕雨読の生活を始めた頃、私は生まれました。その後は祖父母、父母、妹と、6人家族で暮らしていました。

私が就職するまで20年以上同じ屋根の下にいましたが、一家で教会に行くこともなく、また主日礼拝に連れて行かれたことも記憶にありません。生前の祖父から、キリスト教への教え、導きを受けたことはありませんでした。

そのような環境の中で、私が教会へ行きだしたのは、30歳も過ぎてからのことです。比較的教会に近いところに住まいしたのもさることながら、やはり祖父の霊が導いたのではないかと思っています。足を運ぶうちに信徒となり、はや25年の月日が経ちました。



息の長い支援を!!

東日本大震災でお亡

くなりになった方々、ご遺族の方々、被災され困難な日々を余儀なくされておられる多くの方々、加えて原発事故のため不安のうちに生活されておられる方々を、日々の祈りのうちに覚えま

す。わたしは新潟地震、三条

大水害、中越地震を経験しました。それに記憶のうちに新しい皆様が経験された16年前の阪神大震災、それらを一つにしてもはるかに及ばない未曾有の東日本大震災に、ただただ驚愕するばかりです。

全国、いや世界各国から物心両面にわたる救援・支援がいち早く開始されていることは喜ばしい限りです。大阪教

区としても、皆様に救援・支援にご協力くださるようお願いしているところです。

救援物資を調達しようとして大型量販店に行っても、被災地(者)に最も必要なものが全く手に入らないという現実を、どう受けとめればよいのでしょうか。被災地からこんなに離れている当地でさえ、このような状況ですから東京近辺などは推して知るべしです。救援物資として送るために買い求めているのならないのですが...

このような時であるからこそ、今こうして生かされている喜びを、すべての人々と共に支え合い、助け合って生きていく生活を通して、身をもって証ししていきたいものです。

温まりやすく、冷めやすい国民性(?)を打破して、息の長い支援活動を地道に続けていくことが、今わたしたちに一番求められていることではないでしょうか。(主教サムエル大西 修)

「自分の家庭を治めることを知らないものに、どうして神の教会の世話ができるでしょうか。」

「テモテへの手紙1」より (おかもと ただし・大阪聖パウロ教会)

大阪教区から3人の聖職候補生 神学校を卒業、聖職への道へ

大阪教区の3人の聖職候補生が3月、聖公会神学院（東京）から奥村貴充、古澤秀利の両候補生が、ウイリアムス神学館（京都）から千松清美候補生がそれぞれ卒業。先輩聖職や信徒の祝福の中、聖職への道の一步を踏み出した。

聖公会神学院卒業式

奥村 貴充 古澤 秀利 両聖職候補生が巣立ち

ヨハネ 太田 幸彦



3月5日（土）午後2時より、晴天の暖かい日差しの中、東京世田谷区の聖公会神学院の諸聖徒礼拝堂にて、第94回卒業礼拝が執り行われました。大阪教区の聖職候補生として、クリストファー・奥村貴充、ヨハネ古澤秀利の両名が3年間、勉強、実習に励み、無事卒業の日を迎えました。この日卒業を迎えた神学生は7人で、出身教区の内訳は、北海道、東北、北関東、横浜、中部が各1人、大阪教区のみ2人でした。女性は北海道教区



奥村聖職候補生(中央)と古澤聖職候補生(右)

の1人のみです。

植松誠首座主教は説教の中で、「優秀な弟子であったヤコブとヨハネが、天国でイエスの左右に座らせて欲しいと頼んだ時、イエスは許さなかった。イエスの他の弟子も全て落第した。イエスの求める信仰は、死ぬ覚悟が有るかという事であった。そして歴史上の多くの宣教師は、例えば未開のアフリカの地や明治初期の北海道で迫害され、身体、精神を病んで死んでいった。宣教とは死ぬ覚悟が必要な程、自分の信仰が問われる事である」と厳しい覚悟を求められました。



3月16日（水）午前11時から京都教区主教座聖堂、聖アグネス教会に於いて、ウイリ

生が与えられました。ウイリアムス神学校を卒業される千松清美聖職候補生も含めて3人の新しい若い希望が、この4月からそれぞれの任地で聖職の道をスタートさせます。

ウイリアムス神学館卒業礼拝

千松清美聖職候補生ら4人が門出

カテリーナ 阿部 仁美



千松清美聖職候補生

アムス神学館卒業礼拝が行われ、礼拝後に教区センターにて集会が持たれました。

大阪教区からは、ジョイ千松清美聖職候補生が3年間の勉強を終え、みんなの喜びと共に卒業いたしました。

3月11日の東日本大震災がおこり、5日目という時で、祈りの礼拝となりました。犠牲者を悼み被災者のこれからを思い、祈り続けねばと思ひ

（次頁最下段へつづく）

厳しい覚悟で臨む3人を、教区みんなで温かく成長を見守っていきましょう。
（おおた ゆきひこ・聖ルシヤ教会）

守口復活教会から

ウイリアムス神学館入学を控えて

ヤコブ 義平 雅夫



私は、曾祖父が僧侶だったこともあり、幼いころより、

生きていることの意味や死の問題について思いめぐらすことが多かったように思います。20代中ごろに病気で入院を繰り返した体験から、病や死、あるいは不条理の問題について深く関心を持つように

なり、このことがきっかけとなって教会に通うようになり、洗礼を受けました。神の前に生きるということは、病院のベッドで寝ていることしかできなかつた当時の私に、生きる責任と役割を感じさせてくれました。そしてそれは、どのような人にも与えられている尊厳の根拠だとも思えました。それから14年後、2002年の春に他教派の神学生として

て聖路加国際病院で臨床牧会訓練を受講させていただいたことが私の聖公会との出会いとなりました。訓練は無力量感と敗北感が付きまとう苦しいものでしたが、最新の医療機器が整えられた病院で、一步チャペルに足を踏み入れると、そこだけはねじまきで動いているような、懐かしいぬくもりを感じる場所だったことを覚えていきます。

(前頁よりつづく) 卒業礼拝には大阪教区から大西修主教をはじめ、本当に多くの方々の出席がありました。彼女へのみんなの期待が表れているのではないかと思います。また、この喜びの時を共にするため、英国からパメラ・A・クーパー司祭が来日されました。庄内で長年働いてこられ、千松聖職候補生がウイリアムス神学館への道を決めた時に深く関わったクーパー先生の喜びはひとしおです。庄内での千松聖職候補生はサンデークラブで子供たちの先生、また教会委員として、ときばさと働き、頼りになる存在でした。3年前、ウイリアムス神学館へ行くことになって、うれしいことでしたが、彼女の存在の大きさを感ずる時でもありました。

神学生「後援」に祈りと力を結集

後援会 新たに

司祭 ヨシユア 原田 光雄

昨年の定期教区会で、当後援会の発意に基づき、教区神学生への養成のあり方が、象徴的に言うなら「後援会から教区へ」と移行されることになりました。と言っても、後援会のもとでの働き、①神学生後援資金の調達、②神学生との交流、③神学生養成への協力、の3本柱は変わりません。むしろ、これらの働き

に専念し、教区との協働をいっそう深めていきます。教区会による改正の主旨は、「将来の聖職の誕生につながる教区神学生への養成支援を、教区自身が主体性と責任をもって担うべき働きとして明確に位置づける」というものです。具体的には、名称と一部内容の改正を伴い、「助成金及び奨学金規程」と「神学生

を、あらためて覚えます。今春、聖職候補生3人が神学校を卒業して勤務に就き、新たに一人、教区神学生が、聖職への志を胸に神学校での生活を始めます。各教会の後援会理事を中心に、祈りと力をますます豊かにしていきます。

4月13日に入学式を迎え、この春からウイリアムス神学館で学びます。あの日感じたねじまきのぬくもりの意味を、聖公会の伝統と霊性の中で見つけたいと思っています。

今この時に卒業され、決して簡単ではない時代に女性の聖職としての道を選ばれた彼女を本当に応援したいと思います。

(はらた みつお・神学生後援会常任理事)

区 聖職候補生(志願者)

(あべ ひとみ・庄内キリスト教会)



京都教区との協働を目指して 聖職と教会紹介 ④



司祭 ヨハネ 黒田 裕

(下鴨キリスト教会牧師)

教役者となって今年で17年目で、2年前より着任しました下鴨キリスト教会牧師・下鴨幼稚園園長が主たる職務です。毎主日10人ほどの小さな会衆と礼拝堂です。

昨年から当教会を会場に黙想とシェアリングの集い「ほとり」が年数回ずつ行われ、北には植物園、西には賀茂川をのぞむというロケーションもあつてか、ゆつたりと神さまにあつて憩い交わる時が与えられています。

また昨年はリード・オルガンを大修理し、その記念コンサートも開催しました。この修理の折に当器が1928年製ということが分かり、幼稚園創設当初から豊かな調べを奏で続けていることに感銘を



右端が園児と遊ぶ出口執事

受けました(教会はその2年前に設立)。

思い返せば学生時代、「出会いin生野」で聖ガブリエル

教会の歴史と日本聖公会の課題と出会い、ここ下鴨キリスト教会で小さなコンサートを開いて建築献金を募り、それを聖ガブリエル教会までお持ちしたこともありました。妻の家族は大阪教区所属ですし、私が生まれ育った愛知県・豊橋の昇天教会では、大西修主

執事 アントニオ 出口 崇

(京都復活教会牧師補)

ウイリアムス神学館を卒業後、京都復活教会に派遣され、

管理牧師の高地敬主教、協働の吉田雅人司祭のもと、4年目を迎えました。教会の牧師補、幼稚園の副チャプレンを、色々失敗しながら楽しく学ばせてもらっております。

京都復活教会は1914年

教様には牧師として小1から高校卒業まで、原田光雄司祭様にはSS教師として、大変お世話になりました。

今年23日からは聖パウロ教会で行われる「教会奉仕者のための学び」の講師の一人としてお世話になります。いつの間にか様々なゆかりと交わりの中に導かれていく大阪教区に勝手ながら親しみを感じています。今後はその交わりが協働へと成長していくことを願っております。

(くろだ ゆたか)

に創立されまもなく100周年をむかえます。1936年に完成したゴシック様式の教会・幼稚園はW・M・ヴォーリズの設計で、礼拝堂では毎週40〜50人の人達と共に礼拝をささげております。

また、滋賀県大津市北小松の琵琶湖畔に同じくヴォーリズ設計の研修所(キャンプ場)を所有しており、夏には教区や教会のキャンプで毎年たくさんの方々が、施設、団体が利用していただきます(高槻聖マリア教会の皆様にも毎年お

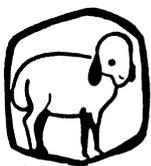
世話になっております)。

利用者と同時に、住み込みの施設管理人のアルバイト(キーパー)も募集しております。大学生の年齢以上で、虫がいても、クレーンがなくても、カレーが3日に1回あっても平気な働き者を紹介してください。

昨年9月からは毎週水曜日の午後3時より、「しょうがい放課後クラブ『ココ』」の活動が始まりました。空いている部屋を利用して、しょうがいのある小学生とボランティアさんが集まり、おもいおもいのひと時を過ごします。「ココ」に集まる子どもや大人にとって安心できる大切な居場所になっています。ボランティアさんや見学の方大歓迎です。

私たちの教会も集められた一人一人にとって安心できる「居場所」であればと願っています。

(でぐち たかし)





宣教懇談会 開かれる

「教会間協働を考える」テーマに

時 臨
区 教
会 会
後

司祭 ヨシユア 原田 光雄

去る3月20日(日)午後、前年度教区一般会計決算のた

めの定例化された「臨時教区会」に引き続き、議員・代議員による恒例の「宣教懇談会」が開催されました。

今年のテーマは「教会間協働を考える」で、教区の将来の姿を展望しつつ、教会間の協働により、どんなことが、どのようにできるか、具体的に、積極的に語り合おう、というものです。懇談のため共有すべきベースとして配布された資料は、①「教区の今後を考える小委員会」報告(2009年11月)、②「プレ宣教協議会(2010年8月開催)分科会報告」(2010年11月)、③「大阪教区22教会現在受聖餐者男女年齢別一覧」(当日)。

懇談会は、前半30分程度の全大会と、後半1時間程の各地区会とからなり、全大会では、各地区会の準備としてプレセッションが行われ、

上記①「小委員会」報告」に関する説明(岩城聰司祭)の後、ケース・スタディーとして、阪神地区(奥康功司祭)と南部大阪地区(岩城聰司祭)の現状が紹介され、課題と展望が述べられました。

プレセッションを受け、各地区会では、どんなことが、どのようにできるか、「教会間協働を考える」ひと時を持ちました。例年どおり、地区会ごとに解散しましたが、後日、懇談の記録を教務局に提出していただくことになっています。各地区の記録は、常置委員会に報告の上、議員・代議員、及び各教会にお届けする予定です。

この懇談会が、今後の、特に教会間協働に活かされることを期待されます。(はらた みつお・教務局長)



昇天日礼拝のお知らせ

日時：6月2日(木)午前10時30分
 場所：大阪城南キリスト教会
 司式：サムエル 大西 修 主教
 説教：フランシス チョウ・ジョンピル 司祭

なお、午後から大阪教区婦人会総会が予定されています。

主催：大阪教区婦人会

第5回

ペンテコステヴァイブル

聖霊降臨日 前夜の礼拝

◎ 6月11日(土)17:30~18:30

◎ 川口基督教会にて

説教者：神田 健次氏
 (関西学院大学神学部教授)

主催：大阪教区 礼拝・音楽委員会

京都・大阪
両 教 区

聖職候補生の「召命黙想会」開催
カトリックの中村道生神父を講師に

司祭 ダニエル 山野上素充

京都教区・大阪教区合同の召命黙想会が3月22日から24日まで、カトリック御受難会「宝塚黙想の家」で開催されました。

参加者は22人で、京都教区11人、大阪教区10人、講師1人。内訳は、すでに神学教育を終え宣教・牧会の現場に出ている聖職候補生、この3月に卒業した聖職候補生、現在神学校在学中の聖職候補生、この4月からの入学予定者、とそれぞれの同じ志をもって招かれた人々でした。講師として参加くださったのは、カトリック・フランシスコ会生野カトリック教会の中村道生神父です。加えて両教区の主教および聖職養成委員がスタッフとして参加しました。



中村道生神父



「聖職候補生」のみを対象にした召命黙想会は、私の知っている限りでは初めてのことで、聖職按手前の黙想会に近い雰囲気でした。参加者の中からは、神学校における学びを終え、現場に赴く前に静かな黙想の時を与えられたことに感謝する声も聞かれました。

中村神父は、ご自分の生い立ち、ことに複雑な家庭環境で育ち、信仰に導かれるまでの苦悩、「神はどこにいるのか」との

疑問を持ち続けた青年時代、司祭として教会で働くか、修道者として歩むか、もうすぐ70歳を迎える中村神父の

「半生」を語り、私たちには自分自身を振り返り、神の語りかけを待つきっかけを作ってくださいました。

今回の黙想会は、聖職候補生を対象に準備しましたが、結果としては約半数がスタッフとして参加した両教区の聖職養成委員で、聖職養成委員にとっても自分との対話として恵まれた3日間でした。

(やまのうえ もとみつ・退職司祭、前聖職養成委員長)

第1回「み言葉の礼拝」を学ぶ講習会

60人が参加、礼拝を体験

ユニケ 原 稔 寿子

3月13日(日)午後2時から大阪教区・礼拝音楽委員会主催「み言葉の礼拝」を学ぶ(全3回)の第1回講習会が川口基督教会で行われました。これは2006年10月から試用されている式文がいくつか



グループごとに分かち合い

の改定案を経て最終案となったため、信徒奉事者など司式に関わる人々を対象として開かれたもので、教役者を含む60名の参加がありました。礼拝・音楽委員長の高橋明子さんの挨拶、内田望司祭の開会の祈り、そして大西修主教が「み言葉の礼拝」の大切な意味を話された後、内田司祭の解説をいただきながら参加者は模擬体験をしていきました。司式は川口基督教会信徒奉事者の田中史さんがしてください、ろうそく・聖書・十字架を持つ象徴的行為の例や、「祈り」の選択肢の多さを学び、み言葉を中心とする

礼拝を体感しました。中でも「勧話」または説教にかえて当日のみ言葉を分かち合ってもよいという設定で、参加者はグループに分かれてそれぞれ神様から与えられたみ言葉について分かち合いました。20分間ひたすらみ言葉に耳を傾けあうことができたように思います。その後、質疑応答や感想など意見が出され、今後各教会で「み言葉の礼拝」をどのようにするかは、牧師の指導の下進めていくことを確認しました。

次回第2回は8月21日(日)午後2時より川口基督教会で開催との予告を受け、会は終了しました。(はらまき としこ・石橋聖トマス教会)



ウィリアム神学館出張講座 (第Ⅰ期)

霊的、信仰的刷新目ざし

教会奉仕者40人が参加

司祭 ペテロ 岩城 聰

一昨年の第102(定期) 教区会に提出した『教区の将来を考える小委員会報告』に基づいて、昨年4月から、教会奉仕者(信徒奉事者、サー

バー、教会委員、将来伝道師を志す方、その他教会で信徒の奉仕職を担っていらっしゃる方)を対象とした学びのプログラムが始まりました。信徒の働きを強め、礼拝や宣教、

スト教礼拝の歴史から、祈禱書の実践的な使い方、さらに、「み言葉の礼拝」の実践に至るまで、細かく突っ込んだ講

習をあきらめる方が少なからずおられたのは残念でした。運営する側、講義する側も十分な振り返りが必要だと感じています。

第2年目は、『新約聖書入門』と『世界聖公会の歴史』の2科目が開講されます。第Ⅲ期の内容は検討中です。みなさんの積極的な受講をお勧めします。(いわき あきら・ウィリアム神学館教授)

教会運営における奉仕を霊的・信仰的に刷新するためには、まず、系統的な学びを始めることが大切だからです。運営は、大阪教区の生涯学習委員会が主体となり、会場となる大阪聖パウロ教会に大変お世話になりました。講師はウィリアムス神学館が担当し、初年度は館長の吉田司祭と大阪教区の岩城司祭(神学館では、教理、聖公会論などを担当)が講義を受け持つことになりました。全体で、3年間で完結するように、プログラムを考えました。第1年目は、早急に必要なものとして、『礼拝学入

2011年度 教会奉仕者のための学び

ウィリアムス神学館出張講座 (第Ⅱ期)

◇ 日時：月1回、原則として第2および第4土曜日
午後2:00～3:30 (ただし、8月と12月はお休み)
全10回。第1回目は、4月9日(土) および23日(土)

◇ 会場：大阪聖パウロ教会

◇ 開講科目2科目：
(第2土曜日)
「世界聖公会の歴史 — 聖公会とはどのような教会か」
(第4土曜日)
「新約聖書入門」
(2教科の受講が望ましいが、1教科ごとの受講も可能)

◇ 担当教員：
世界聖公会の歴史 …… 大阪教区 岩城聰司祭
新約聖書入門 …… 京都教区 黒田裕司祭
(ウィリアムス神学館副館長)

◇ 費用：1年間 10,000円/科目。2教科 20,000円

(なお、すでに開講されておりますので、お断りすることがあるかもしれません。ご了承ください。)

教 区
英語礼拝

大阪にも
英語が溢れるところがある！

司祭 ペテロ 岩城 聰



ジョン・バーク司祭の司式

大阪教区にも、国際色豊かで、英語が溢れるところがあります。大阪聖パウロ教会で毎月第4日曜日、午後4時から行われている教区英語礼拝です。神戸のマリナーズセンターにある「ミッションズ・トゥ・シーフェアラーズ（船員宣教会）」から、毎回、ジョン・バーク司祭（英国聖公会司祭）が来てくださり、説教と聖餐式司式を担当してくださっています。他にも、ジョン・マクリスター氏やピーター・マレット氏など、聖公会の信徒が中心になって、運営、企画、礼拝・音楽の研究

などを行い、日本人スタッフも協力して、いつも新しい礼拝スタイルを取り入れ、伝統的な様式の中に、今日的な音楽や形式が調和した斬新な礼拝を行っています（基本は、英国聖公会の『コモン・ワシップ』です）。

礼拝の後は、楽しいティータイム。ネイティブスピーカーと英語好きの日本人が集まって過ごすひとときです。信仰を共にする者同士の英語コミュニケーションはまた格別の味わいです。

今年度から、イギリスCMSからプール学院のアシスタントチャプレン（主としてプール学院大学）として赴任したフィリップ・フォーブス氏も、英語礼拝に協力することになっていきます。フォーブス氏は25歳の好青年。北アイルランドの出身。ペルファスト・クイーンズ大学神学部の修士課程を修了して、日本で宣教師として働くことを希望して



フィリップ・フォーブス氏

CMSに参加。クーパー司祭の紹介もあり、プール学院がイギリスで面接の上、派遣を受けられることになりました。今回で5回目の来日になり、日本が大好き、日本についての知識も豊富です。1月

世界の窓

西アフリカ管区（CPWA）はギニアにおいて3月21日から25日まで開催された総会で、社会的、経済的、政治的文脈における宣教のあり方について協議した。

総会のテーマを黙示録2章5節の「悔い改めて初めの行いに立ち戻れ」という聖句に定めたことが、問題の緊急性を促し、より深い福音宣教の理解をもたらした。

結論として総会は六種類の重要項目をあげた。大主教ジャスティス・アクロワイ博士によると、それらは「第一に

から3月まで、京都のウイリアムス神学館の寮に寝泊まりして、京都の民際日本語学校で日本語の特訓を受けてきました。その成果は、みなさんが直接お確かめください。趣味は、バトミントン、ジョギング、読書、アニメ、ゲームだそうで、特技(?)としては、「11枚のパンを速く焼くことができる」とのことでした。（いわき あきら・プール学院大学チャプレン）

現実世界に照らし合わせて聖書を理性的に解釈すること、第二に地上における神の国を実現すること、第三に神の国を実現する為にキリスト教徒が他者と共働すべきこと、第四に教会外で社会的、経済的、政治的問題に取り組む重要性を認識すること、第五に社会的正義と環境問題に関与することが教会の創造的役割であること、第六に政府に対してCPWAが社会問題に取り組む先見性のあるパートナーであるとして理解させること」と要約できる。

(Anglican Communion News Service March 30, 2011)

第417号(前号)

訂正とお詫び (太字が正)

大阪教区各委員会・担当者等の構成便覧

(8ページ)

◎総務部

◎広報委員会(追加)

執事 田宮 紘(ホームページ担当)

◎宣教部

②礼拝・音楽委員会 小野田富美子(テモテ)↓アンデル

③在日韓国・朝鮮人宣教協働委員会 田原敬司郎(アグネス)↓(山口)

④生涯学習委員会 司祭 山野上素充(4月まで)↓(3月末まで)

本間欣吾(マリヤ)↓本間欽吾

(9ページ)

◎聖職試験委員会

司祭 奥 康功

司祭 福田光宏(4月まで)↓(3月末まで)

司祭 福田光宏(4月まで)↓(3月末まで)

司祭 井上 美津(ヨハネ)↓(マタイ)

◎聖職養成委員会 司祭 山野上素充(長)↓(4月まで)↓(長)↓(3月末まで)

(追加) 鈴木光子(ステパノ)↓(4月から)

◎教区審判廷員

井上 美津(ヨハネ)↓(マタイ)

◎教区GFSチャプレン 司祭 福田 光宏(4月まで)↓(3月末まで)

◎教区連合男子会チャプレン 司祭 福田 光宏(4月まで)↓(3月末まで)

(10ページ)

「教区の動き」

第2回定例「Ⅲ 協議事項」中

「信徒奉事者の推挙」

◎大阪アンデル教会 岡田哲夫↓奥田哲夫

Service March 30, 2011)

教区の動き

常置委員会報告

2月28日(第4回定例)

1月24日開催の第3回常置委員会議事録を承認。

I. 主教報告

*現時点で決定している教区行事、主教予定が報告された。

*首座主教会議に出席した植松誠首座主教の報告を、大西主教から聞いた。

*「み言葉の礼拝」の式文が主教会で検討された。

II. 教務局長報告

*退職教役者の一時金支給額について、報告があった。

*2011年1月度一般会計決算についての報告があり承認された。

*「司祭ギデオン博司の遺族を支える基金」が所期の目的を達成して、その期間を満了するという報告を受けた。

III. 協議事項

*第105(臨時)教区会に提出する決算報告を受け、議案として提出することを承認した。

*教区会後の「宣教懇談会」の準備、および当日の進行について協議した。事前の準備として、プレ宣教協議会についての主教報告と2009年の第102(定期)教区会に提出された「教区の今後を考える会」の報告を代議員に配布すること、現在受聖餐者の年齢別構成のデータを提出することとした。

*恵我之荘聖マタイ教会の牧師館改修について、教区から100万円を補助すること、聖マタイ教会のための祈りを教区の諸教会に求めることとした。

*信徒奉事者の推挙 次の2名を主教に推挙する。松岡興二、石井英隆(大阪聖愛教会)

*2011年度の「教会奉仕者の学び」(ウイリアムス神学館と共催)の開講科目ならびに日程について報告があり、承認された。

*大阪聖パウロ教会で行われている教区の英語礼拝を継続し、教区から年間10万円の補助をする。

3月3日(京都教区との合同常置委員会懇談会)

協議事項

(1) 2011年度大阪教区・京都教区一日人事交流の実施について協議した。

(2) 2010年度定期教区会にそれぞれ提出した教区間協議報告について協議した。

(3) 2011年度定期教区会に提出する教区間協働に関する議案を作成するプロセスについて協議した。

3月20日(第5回臨時)

協議事項

(1) 東日本大震災被災者支

援について

① 3月20日の信施など、教区に集まった募金を第1回目として「東日本大震災日本聖公会対策本部」に送金する。送金や、物資搬送その他において発生する費用は、「災害緊急支援資金」から支出する。

② 救済物資を集め始める。まず、各教会で集め、ある程度仕分けし、聖贖主教会に送る。聖贖主教会では、奥村聖職候補生を中心に、仕分け、発送準備をする。仕分けに当たるボランティアを募集する。

③ 発送は、開拓されているさまざまなチャンネルを利用する。大阪から直接トラックで運ぶことも検討する。

④ 必要とされる品目のリストは、被災地の状況を見て適宜各教会に周知する。

⑤ 被災地でボランティアとして参加できる人がいるかどうか調査し、待機リストを作成する。また、発揮できる技能、資格等も調べておく。

⑥ 大阪教区の対策本部・暫定本部長は、原田教務局長とする。信徒を含む適材を探し、常駐体制をとることが望ましい。

⑦ 避難者のための住宅提供…空き家等の調査が必要であるが、状況を見て行う。

3月28日(第6回定例)

2月28日開催の第4回(定例)常置委員会および3月20日開催の第5回(臨時)常置委員会の議事録、ならびに3月3日に開催された京都教区との合同常置委員会議事録を承認。

I. 主教報告

*現時点で決定している教区行事、主教予定が報告された。

*ジョージ林正樹聖職候補生の執事志願書が3月7日に提出され、それを受理した。

*ヤコブ義平雅夫聖職候補生志願者について、神学校の就学年数、神学生後援会助成金給付および奨学金貸与、主日実習について。

II. 教務局長報告

*2011年度2月度一般会計決算についての報告があり承認された。

*教区費分担金の調整について報告があり、承認された。

IV. 協議事項

*井上進次執事の司祭按手について、次のことを協議し決定した。

日時…5月8日(日) 午後3時から

司式…大西修主教

説教…岩城聰司祭

式典長…内田望司祭

信施の奉献先…東日本大震災被災者のため

祝会はティーパーティとする。

推薦者…山本眞司祭、鈴木憲二兄(尼崎聖ステパノ)

事前のリトリート…5月4日、5日(実施細目は、聖職養成委員会に一任)

*その他の信施の奉献先を次のように決定した。

聖木曜日の聖油聖別の聖餐

式の信施…神学生養成資金

へ

聖金曜日の信施…エルサレム教区

*東日本大震災の支援について

支援物資の集荷場所、仕分け作業、発送の手順について協議し、決定した。

公 示

救主降生2011年2月22日
日本聖公会大阪教区主教
主教 サムエル 大西 修

4月1日付で、以下の人事を発令します。

- | | |
|-----------------|---|
| 司祭 ペテロ 松山龍二 | 司祭 アンデレ 磯晴久のもと高槻聖マリヤ教会で、司祭 ペテロ 齊藤壹のもと聖ガブリエル教会及び大阪城南キリスト教会で、嘱託司祭として主日に勤務することを委嘱する。ただし、法規第53条第2項に基づき、任期を1年間とする。 |
| 司祭 サムエル 松岡慶一 | 主教 サムエル 大西修のもと富田林聖アグネス教会で、司祭 ヨシユア 原田光雄のもと聖ルカ教会で、嘱託司祭として主日に勤務することを委嘱する。
ただし、法規第53条第2項に基づき、任期を1年間とする。 |
| 司祭 サムエル 坪井克己 | 司祭 ウィリアムス 竹内信義のもと庄内キリスト教会で、司祭 テモテ 内田望のもと大阪聖パウロ教会で、嘱託司祭として主日に勤務することを委嘱する。ただし、法規第53条第2項に基づき、任期を1年間とする。 |
| 司祭 ヨハネ 成田邦雄 | 司祭 施洗者 ヨハネ 山本眞のもと尼崎聖ステパノ教会及び西宮聖ペテロ教会で、司祭 ウィリアムス 竹内信義のもと庄内キリスト教会で、嘱託司祭として主日に勤務することを委嘱する。ただし、法規第53条第2項に基づき、任期を1年間とする。 |
| 司祭 サムエル 福田光宏 | 司祭 ペテロ 齊藤壹のもと聖ガブリエル教会で、司祭 テモテ 内田望のもと川口基督教会で、主教 サムエル 大西修のもと大阪聖愛教会で、司祭 施洗者 ヨハネ 山本眞のもと西宮聖ペテロ教会で、嘱託司祭として主日に勤務することを委嘱する。ただし、法規第53条第2項に基づき、任期を1年間とする。 |
| 司祭 ヨハネ 奥 康功 | 嘱託司祭として、司祭 ペテロ 岩城聰のもと聖ルシヤ教会で主日を中心に勤務すること、及び、司祭 フランシス・チョウ・ジョンピルのもと恵我之荘聖マタイ教会で主日に勤務することを委嘱する。ただし、法規第53条第2項に基づき、任期を1年間とする。 |
| 聖職候補生 ジョージ 林 正樹 | 大阪聖パウロ教会管理牧師 司祭 テモテ 内田望のもとで勤務することを命じる。 |

教会・施設の動き

聖贖主教会

○『東日本大震災』被災者支援物資現地へ
4月2日(土)より聖贖主教会牧師館(1階)に被災地支援センター(仮称)が開設された。第1弾として4月4日(月)朝、4トントラックで各教会や神戸教区から協力いただいた支援物資を、原田光雄司祭を団長とする訪問団6名が現地に向けて出発した。



大阪聖パウロ教会
○東日本大震災の被災者支援

物資への協力として、当教会を練習会場にされているOJC(大阪女学院OJG聖歌隊)の皆さんから練習時に支援物資を届けていただいた。

大阪聖愛教会

○3月20日(日)大斎特別礼拝
聖アグネス教会と合同礼拝
プール学院弦楽部の特別演奏があった。

西宮聖ベテロ教会

○2月28日(月)から3月2日

(水)まで2泊3日で、台湾聖公会の台中にある聖ヤコブ教会と嘉義にある聖ベテロ教会を15名で訪問した。その目的は、現地での交通事故で急逝され、昨年10月2日に行われたピリポ田中彰兄の葬儀に対するお礼と、台湾聖公会と大阪教区の姉妹教会の友好関係を確認するもの。両教会において温かいおもてなしをいただき、感謝と喜びに満たされた旅となった。

桃山学院中学・高等学校

○東日本大震災の被災者支援のため、中学卒業式、終業式、入学式などで募金活動を実施している。また、仙台へ3月20日、23日と、4月2日、6日の2回にわたり、大型バン4台分の灯油等の支援物資を教員チームが届けた。

○7日(木)に入学式を挙行。高校は、新設中学一貫コースの第1期生が高校に進学し、また男女共学の文理コースがスタートしたこともあり、新1年生は20クラス、800人の大所帯で船出した。

桃山学院大学

○桃山学院大学では、5月25日(水)午後1時30分から第102回チャペルコンサートを予定している。今回は韓国のゴスペル隊「オンギジャンイ」が出演。入場無料、お誘い合わせのうえご参加ください。また、第103回チャペルコンサートは6月25日(土)に予定している。

教区関係教役者
逝去者記念聖餐式

◇5月11日(水)午前11時
於:主教座聖堂(川口基督教会)
説教者 磯 晴久司祭

- 司祭 米村 健治 (1919.5.15)
- 伝道師 小幡 久能 (1961.5.24)
- 司祭 アーネスト・ゴードン・ハッチンソン (1973.5.29 英)
- 宣教師 メーベル・C・バックス (1984.5.30 英)

◇6月8日(水)午前11時
於:主教座聖堂(川口基督教会)
説教者 宇野 徹主教

- 司祭 ロバート・マルコム・ミルマン (1945.6.3 加)
- 司祭 オーガスチン 芦澤 光雄 (2002.6.4)
- 司祭 チャールズ・フレデリック・ワレン (1899.6.8 英)
- 司祭 ウイリアム・ペンジェリー・バンコンブ (1942.6.10 英)
- 司祭 ジョージ・テンプシー (1960.6.11 英)
- 司祭 ダニエル 植村 信久 (1980.6.13)
- 司祭 ステパノ 橋本 節 (1996.6.15)
- 司祭 アーウィン・ヘンリー・コレル (1926.6.16 米)
- 伝道師 マルタ 檜内 晰子 (1946.6.18)
- 司祭 ベニヤミン 東 信行 (1943.6.19)
- 司祭 牧岡 鉄弥 (1919.6.20)
- 司祭 ルイス・パーキンソン・ヒル (1943.6.22 英)
- 宣教師 エデイス・メアリー・バーナウ (1944.6.29 英)
- 主教 横田 道信 (1946.6.29)
- 宣教師 アリス・マリアン・コックス (1949.6.29 英)
- 司祭 ヨハネ 荒木 久雄 (1988.6.30)
- 司祭 パウロ 水谷 博彦 (2008.6.30)

*教役者逝去記念聖餐式は、毎月第2水曜日午前11時から、主教座聖堂(川口基督教会)で行われます。ご関係の有無にかかわらず、どうぞ自由にご参加ください。



西宮聖ペテロ教会

マリヤ 大澤 澄子 (2月23日)

リベカ 若山 千陽 (3月27日)

石橋聖トマス教会

マリヤ 多方由美子 (2月6日)



大坂聖愛教会

マリヤ 徳永恵美子 (3月6日)

魂の平安を
祈ります

川口基督教会

佛願 徹 (2月19日・88歳)

垣内 亨子 (3月22日・99歳)

シエナのカタリナ 岡田 浪 (4月4日・91歳)

大坂聖愛教会

フランシス 田口 清治 (1月20日・95歳)

ヨハネ 山崎 善雄 (2月11日・67歳)

ヨセフ 福田 幹夫 (2月13日・74歳)

サムエル 宇田川昌嗣 (2月22日・68歳)

城南キリスト教会

ヨハンナ 荒川 千鶴 (12月29日・44歳)

芦屋聖マルコ教会

マルタ 本松恵美子 (1月16日・63歳)

マリヤ 山邊 操 (1月22日・94歳)

石橋聖トマス教会

アブラハム 小林 文夫 (1月24日・92歳)



2011年大阪教区青少年キャンプ
スタッフ募集のお知らせ

日程：8月9日(火)～11日(木)

場所：紀泉わいわい村(大阪府泉南市)

本年も上記のとおり青少年キャンプを開催します(宣教部主催)。小学校3年生から中学校までを対象にしたこどものキャンプです。開催にあたり、一緒にキャンプを企画、実行して下さる青年スタッフを募集しています。また、キャンプ期間中に、食事作り、かまどのお湯沸かし、看護などのお手伝いをしていただけるシニアスタッフも募集しています。明日の教会を担う若者たちを育てる楽しい働きです。皆様のご協力をお待ちしています。

お問い合わせは宣教部長・齊藤壹司祭まで。
連絡先は以下のとおりです。

電話：06-6772-4152(城南キリスト教会)
Fax：06-6772-0686
メール：saitoh@fj8.so-net.ne.jp

編集後記

予期しない東日本大震災が起こりました。大阪教区報第418号では、被災地への支援活動の速報を掲載いたしました。次号第419号(6月12日発行予定)では、東日本大震災被災者支援活動を特集いたします。広報委員会に田宮紘執事を委員(教区ホームページ担当)として、新たに加わっていたことになりました。教区報のバックナンバーは大阪教区ホームページ(<http://www.nskk.org/osaka/>)をご覧ください。

(George@St.Pauls.Osaka)

公 示

救主降生2011年4月1日
日本聖公会大阪教区主教
主教 サムエル 大西 修

神のお許しがあれば、聖職按主式を下記のとおり執行し、執事パウロ井上進次を公会の司祭に叙任いたします。

諸教会における代禱、及び主にある兄弟姉妹のご臨証をお願いいたします。

記

- ・日 時 救主降生2011年5月8日(日)午後3時
※当日、各教会において復活節第3主日の礼拝を終えて後、執行されます。
※祭色は「赤」を用います。
- ・式 場 大阪教区主教座聖堂(川口基督教会)
大阪市西区川口1-3-8
電話 06-6581-5061
- ・司式者 主教 サムエル 大西 修
- ・説教者 司祭 ペテロ 岩城 聡
- ・式典長 司祭 テモテ 内田 望